



## 2024年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年12月8日

上場会社名 日本駐車場開発株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2353 URL http://www.n-p-d.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 巽 一久  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 渥美 謙介 (TEL) 03-3218-1904  
 四半期報告書提出予定日 2023年12月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年7月期第1四半期の連結業績(2023年8月1日~2023年10月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年7月期第1四半期	7,691	△17.4	1,686	△24.0	1,692	△24.4	1,389	△23.6
2023年7月期第1四半期	9,314	48.2	2,220	88.7	2,239	90.5	1,818	97.7

(注) 包括利益 2024年7月期第1四半期 1,406百万円(△23.4%) 2023年7月期第1四半期 1,836百万円(93.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年7月期第1四半期	4.39	4.36
2023年7月期第1四半期	5.68	5.65

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年7月期第1四半期	36,685	13,693	30.6
2023年7月期	29,007	13,950	39.3

(参考) 自己資本 2024年7月期第1四半期 11,215百万円 2023年7月期 11,390百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年7月期	—	0.00	—	5.25	5.25
2024年7月期	—	—	—	—	—
2024年7月期(予想)	—	0.00	—	5.50	5.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年7月期の連結業績予想(2023年8月1日~2024年7月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	16,300	△2.4	3,500	△1.5	3,500	△1.3	2,600	1.8	8.14
通期	33,000	3.6	7,000	12.9	6,900	10.9	4,800	8.9	15.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2024年7月期1Q	348,398,600株	2023年7月期	348,398,600株
2024年7月期1Q	31,316,020株	2023年7月期	31,730,220株
2024年7月期1Q	316,410,278株	2023年7月期1Q	320,188,911株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予測などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	8
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	13
(重要な後発事象)	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用・所得環境が改善し緩やかな回復が続いております。一方で、世界的なエネルギーコストや資源・原材料価格の高騰による物価上昇、諸外国の金利上昇と円安進行等の影響に注意が必要な状態が続いております。

当社グループの駐車場事業に関連する不動産業界においては、空室率の高止まりが継続しており、スキー場事業及びテーマパーク事業に関連するレジャー・観光業界においては、新型コロナウイルス感染症対策としての行動制限の緩和に伴う社会活動の正常化により、回復基調にあります。

このような事業環境の中、当社グループは「ハッピートライアングル：関わる人全てがハッピーなビジネスを」という企業理念のもと、駐車場事業（国内・海外）、スキー場事業、テーマパーク事業の3つの主力事業において、環境変化に応じた顧客ニーズを追求し、常に斬新で、かつ期待されるサービスや商品を提供する事により、事業の改善に取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間の各事業の概況は以下の通りです。

#### 駐車場事業（売上、営業利益ともに前年超過）

- ・月極駐車場検索サイトの利便性向上施策により、8月のGoogle検索アルゴリズムのアップデート後の検索順位が上昇した結果、駐車場問合せ数が増加。
- ・インバウンド需要増加により活況な、ラグジュアリーホテル等でのバレーサービス受託が進む。

#### スキー場事業（過去最高の売上、最少の営業損失）

- ・8月9月は天候にも恵まれ、各施設の新たな取り組みもあり、来場者数が過去最高となる。

#### テーマパーク事業（売上、営業利益ともに前年対比で減少）

- ・遊園地事業：新規アトラクションのオープンやイベント開催による集客に注力するも、来場者数は前年対比で減少。
- ・宿泊事業：新築別荘の追加投資により部屋数を増やし、宿泊者数は前年を超過。

#### その他事業（売上、営業利益ともに前年対比で減少）

- ・前期はロクヨン社の保有不動産売却により、一過性の売上・営業利益があったため、その他事業全体としては、前年対比で減少。
- ・その他の事業については前年を超過。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は、以下のとおりとなりました。

売上高	7,691百万円（前年同期比17.4%減）
営業利益	1,686百万円（前年同期比24.0%減）
経常利益	1,692百万円（前年同期比24.4%減）
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,389百万円（前年同期比23.6%減）

セグメントの業績は次のとおりです。

各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部取引高を含んでいます。

#### (駐車場事業)

国内駐車場事業においては、月極駐車場検索サイトの利便性を高め問合せ件数を増やすことや、体制強化によりユーザーに最適な駐車場をマッチングするスピードとボリュームの向上に努めてきました。さらに、入手した大量の月極ユーザーの需要データを分析することで、分析結果に基づいたオーナーへの複合的運営提案による新規契約物件の受注に、前期から引続き注力してきました。

当第1四半期連結累計期間においては、サイト利便性の向上施策により、8月のGoogle検索アルゴリズムのアップデート後の検索順位が上昇し、検索表示順位の1～2位比率が7割に到達したことにより、ユーザーからの累計問合せ数は、4万件超え（前年同期3万件）となりました。

また、インバウンドや国内景気の回復に伴いホテル等の稼働が活況になる中で、ラグジュアリーホテルや百貨店のサービスアップやブランドアップのため、駐車場運営だけでなくエントランスのドアサービスの受託や、バレーサービス導入等の受注が増加しております。当第1四半期には、タイのラグジュアリーホテルブランド「デュシタニ」の日本初出店となる「デュシタニ京都」にて、バレーサービスの提供を開始しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における国内駐車場事業の新規契約物件数は32物件、解約物件数は17物件、前連結会計年度末から15物件の純増となり、国内の運営物件数は1,351物件、運営総台数は45,627台となりました。

海外駐車場事業においては、当期より組織体制を変更し、新規物件の受託を増やすべく、駐車場オーナーへの営業を強化、提案数を増加させたことで、「Nasa Vegas Hotel」「Two Pacific Place」等を受託しました。また既存物件の収益性改善を徹底し不採算物件の解約を行ったため、当第1四半期における海外の運営物件数は68物件、運営総台数は15,235台と、足元一時的に前期末対比で物件数が減少しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は4,109百万円（前年同期比7.9%増）、営業利益は977百万円（前年同期比5.0%増）となりました。

#### （スキー場事業）

スキー場事業のグリーンシーズンにおいては、大自然の眺望を望む展望テラスの建設、大型遊具施設の導入、キャンプフィールドの展開等、地域の特性を活かした商品開発を継続し、一年を通じた営業体制を整えることで、ウィンターシーズンに業績が偏重する季節変動リスクの分散に取り組んできました。

当第1四半期連結累計期間の状況は、8月においては繁忙期となるお盆期間も盛況となり、9月も天候に恵まれ観光需要は高い水準が維持されました。10月は猛暑に伴う紅葉シーズンの後ずれや週末の雨天が続きました。そのような中、各施設においては、北アルプスの絶景を目下に解放感とスリルを味わえる超大型ブランコ「白馬ジャイアントスウィング」の新規オープンや、夜の星空観察会「天空の天体ショー」の連日開催等を実施しました。また、3年目を迎える竜王マウンテンリゾートの「ソラグランピングリゾート」では、毎年拡張を続けていますが、高い稼働率を維持し索道以外の主力となる事業として業績に貢献しております。また、川場リゾートでは道の駅川場田園プラザ内に大型遊具施設である空と風のネットアスレチック「HANETTA（ハネッタ）」の運営が2シーズン目となるとともに、併設するおにぎり店「かわばんち」も3年連続で過去最高の売上高を達成しております。なお、めいほう高原開発ではキャンプ施設を運営しており、当期は猛暑による来場者数の減少がありましたが、ウォータースライダー等のアクティビティを増やし集客の向上を行いました。さらに夏休み前に実施した大型の広告宣伝効果もあり、各リゾート共に多数のお客様にご利用いただき、当グリーンシーズンの来場者数は359千人（前年同期比10.2%増）と、昨年に続き過去最高を達成しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,108百万円（前年同期比9.6%増）、営業損失は52百万円（前年同期は118百万円の営業損失）となりました。

#### （テーマパーク事業）

テーマパーク事業においては、積極的な新規アトラクションの開業や、各種イベントの誘致・開催、多様なニーズにお応えするバリエーション豊かな客室増加、レストランの新規開業やリニューアルを通じて、施設全体の魅力向上、出店地域におけるお客様の滞在時間増加に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間において、那須ハイランドパークでは「わんこはかぞく」をコンセプトに家族の一員であるワンちゃんと一緒に乗車できるアトラクションを増やすと共に、犬種ごとの交流会イベントやワンちゃんと楽しめるマルシェを複数回開催しました。また、那須高原りんどう湖ファミリー牧場では、好評いただいている湖上花火大会の開催、日本初導入の水上グランピングの提供、ハロウィンイベント等を開催しました。一方で、繁忙期である夏休み期間におけるお盆の台風上陸や、9月中旬まで例年にない酷暑となる等、天候に恵まれなかったこと、またコロナからの回復により学校団体の来場が減少し、当第1四半期連結累計期間の来場者数は337千人（前年同期比8.7%減）となりました。宿泊事業においては、アカデミア主催のイベントやベンチャー企業の運動会誘致に加え、新たな別荘体験の提供に向けて最新技術を用いた次世代ハウジング「NESTING」の建設をはじめ新築別荘投資を継続し、貸出可能な室数は272室となった結果、当第1四半期連結累計期間の宿泊者数は、56千人（前年同期比11.3%増）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は2,327百万円（前年同期比8.0%減）、営業利益は879百万円（前年同期比17.3%減）となりました。

SDGsの取り組みにおいては、持続可能な経済社会の実現を目指し、グループの2030年カーボンニュートラルの実現のため、新会社「スマートグリーンエネルギー㈱」を立ち上げました。2023年7月には1号案件である、那須ハイランドの別荘地の間伐材を活用した、地産地消の循環型バイオマス発電を開始しました。また、2017年より取り組んでいる保護犬の里親探しを行う「SOS活動」では、取り組み開始以来の累計里親譲渡数が157頭となりました。さらに子ども食堂は、JR東日本（東日本旅客鉄道㈱）との連携により、JR那須塩原駅高架下に新店を開業し、月間1,000食を超えるお食事を提供できるようになりました。グループ会社㈱ティー・シー・ケー・ワークショップによる英会話教室や、日本スキー場開発㈱と連携しスキー教室を開催する等、食事の提供だけでなく、教育や経験の機会の提供にも取り組んでおります。その他にも、SDGs活動を主体事業に組み込むことで、更なる社会貢献に取り組んでまいります。

《駐車場事業の地域別、事業別売上高》

単位：百万円

		東日本	関東	東海	近畿	西日本	国内計
2022年 10月末	直営	235	1,154	156	580	231	2,359
	マネジメント	48	374	58	120	39	642
	その他	24	197	5	109	26	363
	合計	308	1,726	221	811	297	3,365
2023年 10月末	直営	207	1,342	122	645	243	2,561
	マネジメント	51	420	52	126	44	695
	その他	14	188	14	114	35	366
	合計	273	1,951	189	886	323	3,623
前年 同期比	直営	88.0%	116.3%	78.2%	111.1%	104.9%	108.5%
	マネジメント	105.0%	112.3%	90.0%	105.1%	112.9%	108.4%
	その他	59.0%	95.5%	238.0%	104.2%	135.8%	100.9%
	合計	88.4%	113.0%	85.6%	109.3%	108.7%	107.7%

		タイ	韓国	海外計	総合計
2022年 10月末	直営	199	199	399	2,759
	マネジメント	18	5	24	666
	その他	21	—	21	384
	合計	239	205	445	3,810
2023年 10月末	直営	211	220	431	2,993
	マネジメント	20	3	24	720
	その他	29	—	29	396
	合計	262	224	486	4,109
前年 同期比	直営	105.9%	110.2%	108.0%	108.5%
	マネジメント	108.9%	73.6%	101.1%	108.1%
	その他	141.6%	—%	141.6%	103.1%
	合計	109.3%	109.2%	109.2%	107.9%

《駐車場事業の地域別物件数、台数及び契約率》

【月極専用直営物件】

		東日本	関東	東海	近畿	西日本	国内計
2022年 10月末	物件数(件)	92	584	59	247	104	1,086
	借上台数(台)	1,490	10,100	894	4,455	1,820	18,759
	貸付台数(台)	1,331	9,570	837	4,153	1,685	17,576
	契約率	89.3%	94.8%	93.6%	93.2%	92.6%	93.7%
2023年 10月末	物件数(件)	94	611	60	251	119	1,135
	借上台数(台)	1,602	10,768	889	4,740	2,329	20,328
	貸付台数(台)	1,465	10,185	841	4,375	2,259	19,125
	契約率	91.4%	94.6%	94.6%	92.3%	97.0%	94.1%
前年 同期比	物件数	102.2%	104.6%	101.7%	101.6%	114.4%	104.5%
	借上台数	107.5%	106.6%	99.4%	106.4%	128.0%	108.4%
	貸付台数	110.1%	106.4%	100.5%	105.3%	134.1%	108.8%

		タイ	韓国	海外計	総合計
2022年 10月末	物件数(件)	31	2	33	1,119
	借上台数(台)	1,272	138	1,410	20,169
	貸付台数(台)	1,224	138	1,362	18,938
	契約率	96.2%	100.0%	96.6%	93.9%
2023年 10月末	物件数(件)	33	2	35	1,170
	借上台数(台)	1,479	138	1,617	21,945
	貸付台数(台)	1,409	138	1,547	20,672
	契約率	95.3%	100.0%	95.7%	94.2%
前年 同期比	物件数	106.5%	100.0%	106.1%	104.6%
	借上台数	116.3%	100.0%	114.7%	108.8%
	貸付台数	115.1%	100.0%	113.6%	109.2%

【時間貸し併用直営物件】

		東日本	関東	東海	近畿	西日本	国内計
2022年 10月末	物件数(件)	21	37	14	30	13	115
	借上台数(台)	1,925	2,457	2,618	1,792	926	9,718
2023年 10月末	物件数(件)	18	43	13	31	11	116
	借上台数(台)	830	3,286	2,589	1,830	839	9,374
前年 同期比	物件数	85.7%	116.2%	92.9%	103.3%	84.6%	100.9%
	借上台数	43.1%	133.7%	98.9%	102.1%	90.6%	96.5%

		タイ	韓国	海外計	総合計
2022年 10月末	物件数(件)	16	15	31	146
	借上台数(台)	8,132	3,611	11,743	21,461
2023年 10月末	物件数(件)	14	13	27	143
	借上台数(台)	7,593	3,372	10,965	20,339
前年 同期比	物件数	87.5%	86.7%	87.1%	97.9%
	借上台数	93.4%	93.4%	93.4%	94.8%

【時間貸しマネジメント物件】

		東日本	関東	東海	近畿	西日本	国内計
2022年 10月末	物件数(件)	11	44	12	15	13	95
	管理台数(台)	2,060	7,989	1,779	2,764	1,488	16,080
2023年 10月末	物件数(件)	10	48	13	16	13	100
	管理台数(台)	1,972	7,730	1,779	3,011	1,433	15,925
前年 同期比	物件数	90.9%	109.1%	108.3%	106.7%	100.0%	105.3%
	管理台数	95.7%	96.8%	100.0%	108.9%	96.3%	99.0%

		タイ	韓国	海外計	総合計
2022年 10月末	物件数(件)	5	1	6	101
	管理台数(台)	3,708	98	3,806	19,886
2023年 10月末	物件数(件)	5	1	6	106
	管理台数(台)	2,587	66	2,653	18,578
前年 同期比	物件数	100.0%	100.0%	100.0%	105.0%
	管理台数	69.8%	67.3%	69.7%	93.4%

【合計】

		東日本	関東	東海	近畿	西日本	国内計
2022年 10月末	物件数(件)	124	665	85	292	130	1,296
	総台数(台)	5,475	20,546	5,291	9,011	4,234	44,557
2023年 10月末	物件数(件)	122	702	86	298	143	1,351
	総台数(台)	4,404	21,784	5,257	9,581	4,601	45,627
前年 同期比	物件数	98.4%	105.6%	101.2%	102.1%	110.0%	104.2%
	総台数	80.4%	106.0%	99.4%	106.3%	108.7%	102.4%

		タイ	韓国	海外計	総合計
2022年 10月末	物件数(件)	52	18	70	1,366
	総台数(台)	13,112	3,847	16,959	61,516
2023年 10月末	物件数(件)	52	16	68	1,419
	総台数(台)	11,659	3,576	15,235	60,862
前年 同期比	物件数	100.0%	88.9%	97.1%	103.9%
	総台数	88.9%	93.0%	89.8%	98.9%

- ※『借上台数』・・・当社グループと駐車場オーナーとの間で賃貸借契約を締結している台数  
『貸付台数』・・・月極専用直営物件において、当社グループと駐車場ユーザーとの間で賃貸借契約を締結している台数  
『管理台数』・・・時間貸しマネジメント物件の総収容台数  
『契約率』・・・月極専用直営物件において『貸付台数』を『借上台数』で除した比率  
『総台数』・・・『借上台数』+『管理台数』



《駐車場付マンスリーレンタカー設置台数》

(単位：台)

	2022年 10月末	2023年 10月末	前年同期比
駐車場付マンスリーレンタカー設置台数	473	446	94.3%

《グリーンシーズン》

■索道を稼働した施設における来場者数

(単位：千人)

施設名	2022年 10月末累計	2023年 10月末累計	前年同期比
HAKUBA VALLEY国際山岳リゾート白馬八方尾根	60	64	108.0%
HAKUBA VALLEY白馬岩岳マウンテンリゾート	111	123	110.8%
HAKUBA VALLEYつがいけマウンテンリゾート	46	52	114.3%
竜王マウンテンリゾート	38	48	127.0%
計	255	289	113.2%

■その他の施設における来場者数

(単位：千人)

会社名	2022年 10月末累計	2023年 10月末累計	前年同期比
(株)鹿島槍	1	2	185.3%
川場リゾート(株)	51	52	103.3%
めいほう高原開発(株)	18	14	82.1%
計	70	69	99.2%

(注) 1. 索道を稼働した施設における来場者数については、主にリフト券の販売数に基づいて記載しております。索道とは、ゴンドラ、ロープウェイ及びリフトを指します。

2. その他の施設における来場者数は以下の合計となります。

(株)鹿島槍 : HAKUBA VALLEY鹿島槍スポーツヴィレッジの来場者数

川場リゾート(株) : スケートボードパーク施設の来場者数、HANETTAの来場者数及びおにぎり店の来場者数(レジ通過者数)

めいほう高原開発(株) : キャンプ施設、ASOBOTの来場者数及びおにぎり店の来場者数(レジ通過者数)

《テーマパーク事業の来場者数》

(単位：千人)

施設名	2022年 10月末累計	2023年 10月末累計	前年同期比
那須ハイランドパーク	243	214	87.8%
NOZARU	15	12	84.4%
那須高原りんどう湖ファミリー牧場	109	109	100.1%
計	369	337	91.3%

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べて7,678百万円増加し、36,685百万円となりました。主な要因は、1,662百万円の配当を実施したものの、8,211百万円の新規借り入れを行ったこと等により現金及び預金が6,811百万円増加したこと等によるものです。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べて7,935百万円増加し、22,991百万円となりました。主な要因は、新規借り入れにより長期借入金が増加したこと等によるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べて257百万円減少し、13,693百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益を1,389百万円計上したものの、1,662百万円の配当を実施したこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年9月8日に公表いたしました2024年7月期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,050,709	17,861,829
売掛金	1,151,757	1,041,900
棚卸資産	658,428	1,054,091
その他	1,635,689	1,466,319
貸倒引当金	△14,510	△14,380
流動資産合計	14,482,074	21,409,760
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,198,149	6,064,406
土地	1,746,528	1,795,028
その他（純額）	3,981,229	4,607,404
有形固定資産合計	11,925,907	12,466,840
無形固定資産		
のれん	21,116	6,033
その他	140,843	136,792
無形固定資産合計	161,959	142,825
投資その他の資産		
投資有価証券	771,615	935,103
その他	1,759,556	1,810,633
貸倒引当金	△94,000	△80,000
投資その他の資産合計	2,437,171	2,665,737
固定資産合計	14,525,039	15,275,403
資産合計	29,007,113	36,685,163
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	357,125	343,234
短期借入金	378,000	528,000
1年内返済予定の長期借入金	383,678	506,259
未払法人税等	966,612	426,474
その他	2,803,136	2,969,256
流動負債合計	4,888,552	4,773,224
固定負債		
社債	500,000	600,000
長期借入金	6,496,560	14,435,840
退職給付に係る負債	28,618	31,784
企業結合に係る特定勘定	1,611,609	1,611,609
その他	1,530,795	1,539,062
固定負債合計	10,167,583	18,218,296
負債合計	15,056,136	22,991,520

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	699,221	699,221
資本剰余金	812,761	866,819
利益剰余金	14,600,896	14,315,983
自己株式	△4,971,983	△4,948,185
株主資本合計	11,140,895	10,933,838
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	140,735	205,424
為替換算調整勘定	108,840	76,076
その他の包括利益累計額合計	249,576	281,501
新株予約権	373,074	358,148
非支配株主持分	2,187,431	2,120,155
純資産合計	13,950,977	13,693,643
負債純資産合計	29,007,113	36,685,163

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
売上高	9,314,967	7,691,784
売上原価	5,756,174	4,598,768
売上総利益	3,558,793	3,093,015
販売費及び一般管理費	1,338,533	1,406,456
営業利益	2,220,259	1,686,558
営業外収益		
受取利息	895	2,227
受取配当金	—	71
助成金収入	1,149	2,092
為替差益	24,373	13,758
その他	13,013	12,533
営業外収益合計	39,432	30,683
営業外費用		
支払利息	11,378	18,225
その他	8,697	6,434
営業外費用合計	20,076	24,659
経常利益	2,239,615	1,692,582
特別利益		
固定資産売却益	4,813	42,318
新株予約権戻入益	26,855	—
貸倒引当金戻入額	—	14,196
特別利益合計	31,668	56,514
特別損失		
固定資産除却損	4,612	20,292
特別損失合計	4,612	20,292
税金等調整前四半期純利益	2,266,670	1,728,804
法人税、住民税及び事業税	521,295	429,627
法人税等調整額	△49,816	△74,126
法人税等合計	471,478	355,501
四半期純利益	1,795,192	1,373,302
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△23,361	△15,758
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,818,553	1,389,060

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
四半期純利益	1,795,192	1,373,302
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,255	64,688
為替換算調整勘定	36,815	△31,629
その他の包括利益合計	41,070	33,059
四半期包括利益	1,836,262	1,406,361
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,854,953	1,420,986
非支配株主に係る四半期包括利益	△18,691	△14,624

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	駐車場事業	スキー場事業	テーマパーク事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	3,766,969	1,011,476	2,527,515	7,305,961
セグメント間の 内部売上高又は振替高	43,229	—	1,169	44,399
計	3,810,199	1,011,476	2,528,685	7,350,361
セグメント利益 又は損失(△)	930,594	△118,881	1,063,398	1,875,111

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益 計算書計上額
売上高				
外部顧客への売上高	2,009,005	9,314,967	—	9,314,967
セグメント間の 内部売上高又は振替高	3,785	48,185	△48,185	—
計	2,012,791	9,363,152	△48,185	9,314,967
セグメント利益 又は損失(△)	450,246	2,325,357	△105,098	2,220,259

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教育事業、ヘルスケア事業及び不動産事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△105,098千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に財務経理等の管理部門に係る費用及び各報告セグメント共通の費用であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 「その他」区分には、保有不動産売却による売上1,853,240千円を含んでおります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	駐車場事業	スキー場事業	テーマパーク事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	4,098,650	1,091,053	2,326,036	7,515,740
セグメント間の 内部売上高又は振替高	11,087	17,838	1,614	30,540
計	4,109,738	1,108,891	2,327,651	7,546,280
セグメント利益 又は損失(△)	977,419	△52,045	879,925	1,805,300

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益 計算書計上額
売上高				
外部顧客への売上高	176,043	7,691,784	—	7,691,784
セグメント間の 内部売上高又は振替高	677	31,218	△31,218	—
計	176,721	7,723,002	△31,218	7,691,784
セグメント利益 又は損失(△)	45,847	1,851,147	△164,588	1,686,558

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教育事業、ヘルスケア事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△164,588千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に財務経理等の管理部門に係る費用及び各報告セグメント共通の費用であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。